

令和3年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



2022年5月18日
NPO法人北海道遺産協議会



北海道遺産
Hokkaido Heritage

令和3年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計17件665万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	スキーとニセコ連峰、アイヌ語地名、アイヌ文様	ニセコ地域、北海道各地	ニセコ発酵ツーリズム推進協議会	北海道遺産「スキーとニセコ連峰」の四季を通じた魅力再発見事業～酒蔵マップ制作～	500,000
2	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	次世代につなげるための雪合戦受入環境整備及び学習会	500,000
3	利尻島の漁業遺産群と生活文化	利尻島	利尻しまじゅうエコミュージアム	ほっかいどう遺産「利尻島の漁業遺産群と生活文化」魅力発信事業	500,000
4	札幌軟石	札幌市	札幌軟石ネットワーク	札幌軟石の歴史を気軽に知るツール制作 (①AR整備・②小冊子原稿)	500,000
5	天塩川	流域市町村	テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会 (構成団体:土別市、名寄市、和寒町、剣淵町、幌加内町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、天塩町の10市町村)	松浦武四郎絵本普及事業	500,000
6	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	縄文DOHNANプロジェクト	縄文遺跡群を核とする道南地域周遊促進プロジェクト	500,000
7	上ノ国の中世の館	上ノ国町	上ノ国観光ガイド協会(上ノ国町)	中世の館の新たな史実を発信!! 子供たちとつくる「懸仏絵本」プロジェクト	500,000
8	北海道の馬文化	北海道各地	北海道和種馬保存協会	北海道和種馬による介護予防乗馬	480,000
9	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	一般社団法人「ワールズ・ミート・ジャパン」	オンラインで大船遺跡の魅力を発信	450,000
10	開拓使時代の洋風建築	札幌市	一般財団法人北海道歴史文化財団	豊平館の3D画像化によるアーカイブ活動	400,000
11	蝦夷三官寺	伊達市、様似町、厚岸町	北海道中央バス株式会社 シービーツアーズカンパニー	未来に伝えるアイヌと和人の関係史「蝦夷三官寺」バスツアー	380,000
12	根釧台地の格子状防風林	中標津町など	中標津町	「根釧台地の格子状防風林」周知事業	300,000
13	函館西部地区の街並み	函館市	株式会社函館島	北海道遺産「函館西部地区の街並み」を持続可能にするためのツールの開発・提供「函館カラープロジェクト」	300,000
14	開拓使時代の洋風建築	札幌市	一般社団法人 さっぽろ下町づくり社	旧永山邸からはじまる、開拓使時代のあしあと探しプロジェクト	270,000
15	天塩川	流域市町村	土別市	天塩岳避難小屋修繕	220,000
16	サケの文化	北海道各地	一般社団法人石狩シェアハビシティ計画	北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト	200,000
17	ピアソン記念館	北見市	特定非営利活動法人ピアソン会	特定非営利活動法人ピアソン会「20周年記念誌」	150,000
—	北海道の馬文化	北海道各地	一般社団法人umanowa(うまのわ)	ひだかうまキッズアドバンス	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により助成活動未実施。 (助成金返納済)



1. 北海道遺産「スキーとニセコ連峰」の四季を通じた魅力再発見事業～酒蔵マップ制作～

■ 実施主体：ニセコ発酵ツーリズム推進協議会

■ 助成額：500,000円

一活動内容一

- ニセコ地域の新たな楽しみ方として発酵ツーリズムを提案、展開していくための初めのステップとして、当協議会に加盟する11団体を掲載した「NISEKO HAKKO MAP」を制作した。
- モニターツアーを実施。1回目は観光事業者を対象としたモニタリング、2回目は札幌国際大学観光学部2年生のフィールドワークと連携し、若い世代の意見を得ることができた。
- 今後の活動によって、発酵を軸とした新たなコラボレーションやイベントが生まれるプラットフォームとなることを目指し、ニセコエリアにおける観光振興に繋げていく。



▼ モニターツアーの様子



遺産の名称：
「スキーとニセコ連峰」
(ニセコ地域)



厳しい寒さや雪に閉ざされる北海道の人々にとって、冬期間の最大の娯楽はスキー遊びだった。昭和40年代頃からは「冬のレジャー」と言われるようになり、スキー場の代表格が昭和初期から知名度の高かったニセコ連峰。娯楽が多様化した今日、ウィンタースポーツだけではなく、四季を通じての新しいアウトドアスポーツの拠点となっている。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

2. 次世代につなげるための雪合戦受入環境整備及び学習会

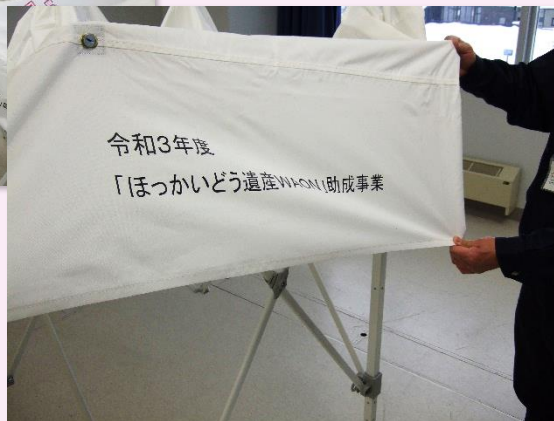
■ 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会（壮瞥町）

■ 実施団体URL：<http://www.yukigassen.jp/>
（昭和新山国際雪合戦実行委員会HP）

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 新型コロナウイルス感染症対策として検熱・抗原検査申告用の大型テントを購入。大会にて設置予定であったが、まん延防止等特別措置の適用により開催を中止。昭和新山学習会も人を集める行為に抵抗が生じる状況下により実施を断念した。今年度の取組みは雪合戦HPにて記事を掲載するなど、次年度以降につなげられるよう末永く周知啓発していく。



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦大会」（壮瞥町）



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。



3. ほっかいどう遺産「利尻島の漁業遺産群と生活文化」魅力発信事業

- 実施主体：利尻しまじゅうエコミュージアム
- 実施団体URL：<https://rishiriecomuseum.wixsite.com/rishiriisland>
(利尻しまじゅうエコミュージアムHP)
- 助成額：500,000円

—活動内容—

- 維持補修

漁業遺産群の保存を目的とし、「ニシンの釜場」及び「泉の袋澗」の清掃整備活動を実施。清掃整備ではゴミ拾いのほか、景観をよくするための草刈りや流木処理等も行った。



- 案内板設置

『利尻島の漁業遺産群と生活文化』を島民や観光客に周知するため、島内2カ所に新たに多言語案内板を設置。現在までに計5箇所設置されている。各漁業遺産群の歴史等を写真を添付し説明しており、QRコードを読み込むことによって英語版の説明及び「利尻しまじゅうエコミュージアム」のホームページにアクセスすることができる。



- 広報宣伝

広報紙「しまじゅう通信」の発行を開始。これまでの活動実績や令和3年度に実施した活動のほか、関係者によるコラムや利尻島に点在する遺産のMAP等を掲載し、島内全戸に配布。



遺産の名称：

「利尻島の漁業遺産群と生活文化」（利尻島）



日本最北の利尻島には、近世以降の漁業と移住の歴史を物語る漁業遺産群がある。近世には松前藩、近江商人による交易場所がおかれ、アイヌがそれを支えた。幕末以降は出稼漁民が松前や青森、秋田から渡り漁場を拓いた。その記憶は袋澗や番屋、石碑や獅子舞などに残っている。島の産物であった鯺は、北前船で本州に運ばれた。利尻島を行き来する海の道は「ヒトは北へ、モノは南へ」という交流史をつくりあげた。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

4. 札幌軟石の歴史を気軽に知るツール制作 (①AR整備・②小冊子原稿)

■ 実施主体：札幌軟石ネットワーク

■ 実施団体URL：<https://sapporonanseki.jimdofree.com/>
(札幌軟石ネットワークHP)

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

1. かつての石切り場「藻南公園軟石ひろば」「石山緑地公園」の景色に、かつての採掘の様子を重ねてみる事ができるAR（拡張現実）による現地ガイドを導入。
2. 以前作成した小冊子の内容に変更箇所が出てきており、札幌軟石に興味を持っている方々に正しい情報をお伝えするためのツールにするため、最新版の原稿を制作した。

▼ ARで再現された動く石工達



▼ 札幌軟石小冊子



遺産の名称：

「札幌軟石」（札幌市）



札幌軟石は、4万年前、支笏火山の大規模な噴火による火砕流が札幌周辺で冷えて固まった岩石（溶結凝灰岩）である。加工しやすく、耐火・防火性に富んだことから、明治初期より札幌をはじめ北海道内の建造物に多く用いられ、個性的な景観も形づくった。古い石蔵がカフェなどに再利用され、採石場跡は公園や緑地として市民に親しまれているのみならず、軟石は現在も市内南区で採掘され、近年は建物の仕上げ材としても人気がある。また、軟石の雑貨が商品化されるなど、札幌軟石の文化は今も脈々と受け継がれている。

5. 松浦武四郎絵本普及事業

■ 実施主体：テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会

(構成団体：士別市、名寄市、和寒町、剣淵町、幌加内町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、天塩町の10市町村)

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 昨年度製作した絵本「悠久の大河松浦武四郎が見た天塩川」を天塩川周辺市町村の小学校において副読本として活用するため、簡易印刷版の絵本を500部製作し協議会を構成する10市町村に配布した。
- 構成団体である剣淵町の「絵本の館」において絵本の読み聞かせイベントを実施。当日は読み聞かせに加え、天塩川流域研究会の鈴木氏をお招きして物語に関する解説をしていただき、子どもだけでなく子育て世代にとっても地域の魅力を再発見できる機会を創出した。



遺産の名称：
「天塩川」 (流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができ日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

6. 縄文遺跡群を核とする道南地域周遊促進プロジェクト

■ 実施主体：縄文DOHNANプロジェクト

■ 助成額：500,000円

一活動内容一

- 北海道・北東北の縄文遺跡群の魅力と価値を地域や観光客へ浸透していくよう、フォトスポットを設置しフォトラリーを実施する予定であったが、コロナの沈静が見込めず人の流れを多く生む可能性があるため、計画を変更した。道南圏（今回は渡島）全体に縄文遺跡が存在していることから、各まちの特色と縄文応援キャラクターカックーを合わせたご当地カックーを制作した。
- 設置場所は人々が賑わう道の駅とし、キャラクターパネルと各市町の遺物を紹介するパネルを地元の学芸員と共に制作した。
- 北海道・北東北の縄文遺跡群を楽しくわかりやすく紹介するPRパネルも制作し、今後は各イベントにて子供たちへ向けての紹介や、各学校や店舗等へ貸し出しを行い縄文を発信する。



遺産の名称：

「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」

（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

7. 中世の館の新たな史実を発信！！子供たちとつくる「懸仏絵本」プロジェクト

- 実施主体：上ノ国観光ガイド協会（上ノ国町）
- 実施団体URL：<http://www.town.kaminokuni.lg.jp/>（上ノ国町HP）
- 助成額：500,000円

一活動内容一

- ワークショップ『みんなで懸仏絵本の物語をつくろう！』の開催
日時：11月20日（土）13:30～15:40
場所：上ノ国町総合福祉センター ジョイじょくら
参加人数：19名
開催プログラム：
 - (1) 「懸仏」ってなに？（10分）
 - (2) 準備運動（5分）
 - (3) 上ノ国のお宝になろう（15分）
 - (4) 物語を作って劇にしよう！



- 冊子製作
子供たちの作った物語を元に、絵本を製作



遺産の名称：
「上ノ国の中世の館
（たて）」（上ノ国町）



史跡上之国館跡の一つである上ノ国町の夷王山中腹に広がる山城「勝山館」跡。松前藩の祖とされる武田信廣が1470年頃に天の川左岸の中心部で標高100メートルの丘陵に築かれた館跡で、16世紀にかけて機能し軍事・政治・北方貿易の拠点とされていた。発掘調査では数多くの住居や出土遺物のほか、アイヌが使用した骨角器や和人墓と隣接したアイヌ墓がみつかったことから、和人とアイヌの混住説が唱えられている。また、史跡指定地内に建てられた「勝山館跡ガイダンス施設」では、出土品や復元された館の模型及び墓のレプリカを見学することができる。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

8. 北海道和種馬による介護予防乗馬

■ 実施主体：北海道和種馬保存協会

■ 助成額：480,000円

一活動内容一

- 北海道和種馬を使って、介護認定を受けておらず自立している乗馬経験の浅い高齢者の乗馬及び乗馬の都度健康チェックを実施。さらに日本医療大学スタッフによる体調の測定をして介護予防活動を実施。



遺産の名称：
「北海道の馬文化」
(北海道各地)



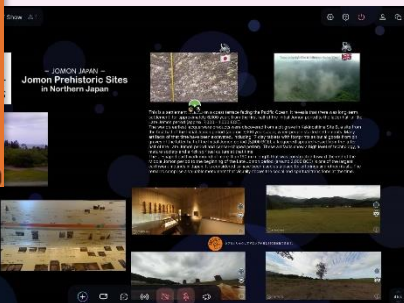
北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦勞をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

9. オンラインで大船遺跡の魅力を発信

- 実施主体：一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン
- 実施団体URL：<https://worldsmeet.org/>
(一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパンHP)
- 助成額：450,000円

ー活動内容ー

- 大船遺跡の魅力発信を予定していたが、熊の出没により立ち入りが禁止された為、垣の島遺跡と縄文センターを北海道教育大函館校地域プロジェクトの学生と共に撮影取材を行った。
- 垣ノ島遺跡編と縄文センター編の2本の動画と韓国語、中国語、英語の字幕を作成し、「はこだて国際民俗芸術祭」のYouTubeに公開。10月に開催したオンラインイベント「芸術祭ショー」のメイン画面にも動画を公開し、イベント参加者が自由に視聴できるようにした。
- オンラインイベントでは5組の国内アーティスト、イランとインドと中継を繋げた生ライブ配信と、フードデリバリーの会社と連携を行い、イベント期間中に約80店舗の函館市内の飲食店の食事を自宅で楽しむという取り組みも行った。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」
(函館市、伊達市など)



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

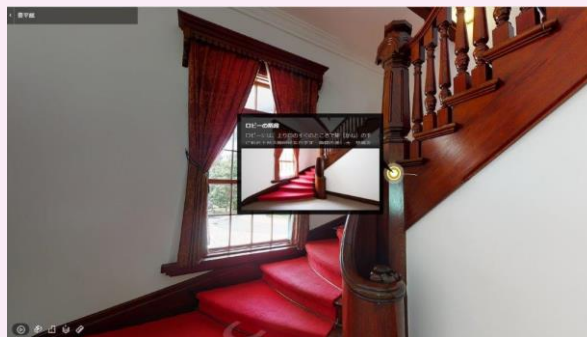
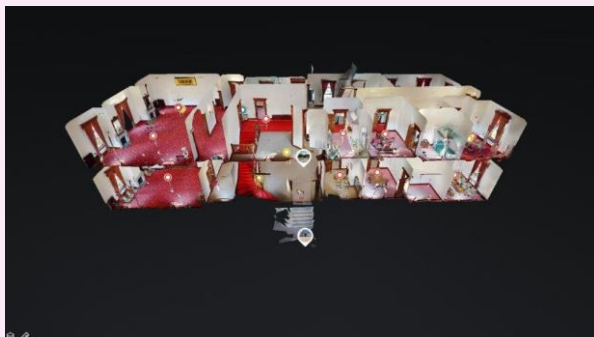


10. 豊平館の3D画像化によるアーカイブ活動

- 実施主体：一般財団法人北海道歴史文化財団
- 実施団体URL：<http://www.kaitaku.or.jp/zaidan/hokkaidorekibun.htm>
(北海道歴史文化財団HP)
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

- 「開拓使時代の洋風建築」の一つである豊平館を、長く後世に残す記録として館内を撮影した。撮影したデータは、館内を自由に見学できる疑似体験できるものとし、各部屋や建物の特徴などを画面に表示させるとともに、360度自由に観覧できる仕組みとした。
- 豊平館を永く後世に遺していくために、日常の建造物等の保守点検に当データを活用しながら行う体制を整えることができた。
- 道内外の観光客に対して、重要な観光資源として存在価値を高め、また、豊平館の保存・活用への関心を高めるための下地作りとする事ができた。



遺産の名称：
「開拓使時代の洋風建築」
(札幌市)



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をになった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

11. 未来に伝えるアイヌと和人の関係史「蝦夷三官寺」バスツアー

- 実施主体：北海道中央バス株式会社シービーツアーズカンパニー
- 実施団体URL：<https://www.cb-tours.com/>
(北海道中央バス株式会社シービーツアーズカンパニーHP)
- 助成額：380,000円

一活動内容一

- 現地解説員付きの蝦夷三官寺巡りを計画し、アイヌ文化と和人の関係史、各お寺の歴史文化ストーリーを紹介した。また、地域のお土産付にすることで、購買力の高まりや経済効果を増すことができた。



遺産の名称：
「蝦夷三官寺」
(伊達市、様似町、厚岸町)



蝦夷三官寺とは、江戸幕府が1804年に現在の伊達市・様似町・厚岸町に建立した3つの寺院の総称である。各寺は蝦夷地で死亡した和人の葬儀とアイヌ民族への仏教布教を目的とし、背景には対ロシア政策として幕府による蝦夷地支配を示す狙いがあった。しかし、アイヌと和人の文化接触は比較的緩やかであったため、アイヌ文化の儀礼・祭祀の独自性は損なわれず、かつ各寺に対する信仰と崇敬の念が保たれたまま今日に至っている。そこには明治期以降とは異なるアイヌと和人の関係史がみてとれる。



12. 「根釧台地の格子状防風林」周知事業

- 実施主体：中標津町
- 実施団体URL：<https://www.nakashibetsu.jp/>（中標津町HP）
- 助成額：300,000円

—活動内容—

- 雄大な景色を見下ろせる開陽台の展望台付近に、格子状防風林が北海道遺産であることを周知する看板を設置していたが、令和3年4月の強風により倒壊した。それにより、周知が図れない状態となっていたが本助成事業により看板を修繕することができた。
- 看板を修繕したことにより、開陽台に来訪する方々に格子状防風林や北海道遺産をPRすることが可能となった。

▼ 修繕前の倒壊した看板



▼ 修繕後の看板



遺産の名称：
「根釧台地の格子状防風林」（中標津町など）



中標津町、別海町、標津町、標茶町にまたがる格子状防風林は、スペースシャトルからも撮影されたように、そのスケールにおいても地球規模的な、北海道ならではの雄大なもの。幅180m、総延長648kmの林帯は、防風効果だけではなく野生動物のすみかや移動の通路としての機能も果たしている。開拓時代の植民地区画を示す歴史的意義も持つ。



13 . 北海道遺産「函館西部地区の街並み」を持続可能にするためのツールの開発・提供 「函館カラープロジェクト」

- 実施主体：株式会社函館島
- 実施団体URL：<https://colorbox.hakodatejima.com>（株式会社函館島HP）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

- 函館西部地区に現存する自然環境や人工物の素材から、街並みに馴染むカラーパレットを作成し、環境にやさしい自然派塗料のHaymesPAINT（ヘイムスペイント）を使用した「函館カラー」の塗料を開発。自社で開発した色のほか、一般市民に向けて公募も行った。
- 移動可能な展示用ブースを製作し、函館空港内にて展示を行った。



遺産の名称：
「函館西部地区の街並み」
（函館市）



函館は1859（安政6）年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並び、

14. 旧永山邸からはじまる、開拓使時代のあしあと探しプロジェクト

- 実施主体：一般社団法人 さっぽろ下町づくり社（札幌市）
- 実施団体URL：<http://sapporo-shitamachi.com/>（下町づくり社HP）
- 助成額：270,000円

一活動内容一

- 開拓使時代のあしあと探しインフォメーションサイト作成
 今までの活動を通して収集したまちの歴史文化資産をまとめ、まちの情報を広く配信できるマップ制作を予定していたが、感染症予防とデジタルツールが普及している状況を鑑みて、インフォメーションサイトの開設に変更。
 札幌市外からお越しの方はもちろん、札幌在住の方にも開拓使時代の歴史に触れ、新しい視点から札幌の文化歴史に親しめる、まちあるきインフォメーションサイトを下町ホームページ上に開設。



遺産の名称：
「開拓使時代の洋風建築」
（札幌市）



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をになった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。



15. 天塩岳避難小屋修繕

- 実施主体：士別市
- 実施団体URL：<https://www.city.shibetsu.lg.jp/www/index.html>
(士別市HP)
- 助成額：220,000円

一活動内容一

- 天塩岳避難小屋は建設から30年以上が経過し、厳しい自然の中で風雨や豪雪により施設の南西部外壁や1階床面の損傷が著しいため修繕を行った。
- 外壁と軒下に防風防湿シート貼り付けし、サイディング材による補修を行った。
- 小屋内1階床面の劣化した床板を交換し、クッションフロアの貼り付けを行った。



遺産の名称：
「天塩川」(流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができ日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

16. 北海道遺産「サケの文化」の次世代担い手発掘プロジェクト

- 実施主体：一般社団法人石狩シェアハピシティ計画
- 実施団体URL：<https://www.ishikarishc.com/>
(一般社団法人石狩シェアハピシティ計画HP)
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- 三笠高校調理部と連携し、北海道を代表する郷土料理「石狩鍋」の若年層向けアレンジ鍋「石狩シャケナベイバー」のレシピを3種類開発（旨辛スタイル、ゴマ豆乳スタイル、イタリアンスタイル）。レシピ動画を制作し、動画共有サイト「You Tube」上にアップロード。また、弊社団体ホームページにて公開した。
- 上記アレンジ鍋レシピチラシを作成し、道内外の若年層が集うイベント「北海道移住ドラフト会議2021」にて参加者及び運営スタッフにチラシを配布し、プロモーションを実施した。



▼「石狩シャケナベイバー」 イタリアンスタイル



遺産の名称：
「サケの文化」
(北海道各地)



サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、2009（平成21）年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。



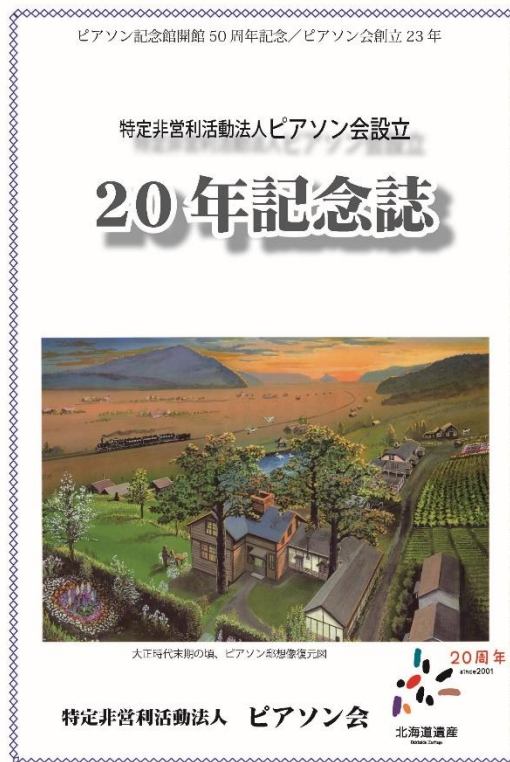
北海道遺産
Hokkaido Heritage

17. 特定非営利活動法人ピアソン会「20周年記念誌」

- 実施主体：特定非営利活動法人ピアソン会（北見市）
- 実施団体URL：<http://www.npo-pierson.org/>（ピアソン会HP）
- 助成額：150,000円

ー活動内容ー

- NPO法人化してピアソン記念館の指定管理を受けてから20年を迎えるにあたり、道内におけるNPO法人の先駆的な活動の記録をまとめた記念誌を発刊した。
- 電子書籍の形式で発行。印刷製本による発行はオンデマンド印刷で20部製作し、国立国会図書館・北海道立図書館・北見市立図書館など関係団体へ寄贈。



遺産の名称：
「ピアソン記念館」
（北見市）



アメリカ人宣教師G. P. ピアソン夫妻の私邸として1914（大正3）年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見）。廃娯運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW. M. ヴォーリス。